

立命館学生ジョブコーチという取り組み

On Ritsumeikan Student Job Coach System

○山口 真理子*・池田 沙織*・小林 靖尚*・中鹿 直樹*・望月 昭**

○YAMAGUCHI Mariko, IKEDA Saori, KOBAYASHI Yasunao, NAKASHIKA Naoki and MOCHIZUKI Akira

立命館大学応用人間科学研究科*・立命館大学文学部**

(Graduate School of Human Services, Ritsumeikan University)

Key words : 継続的就労支援、キャリアアップ

・立命館学生ジョブコーチとは

立命館学生ジョブコーチシステムは、障害のある個人の就労場面において、応用行動分析の基礎的方法を学習した大学生が、就労実習や実際の企業でのジョブコーチの役割を行い、就職や継続的就労を支援するものである(望月, 2007)。

立命館大学では、2004 年に近隣の総合支援学校(特別支援学校)の高等部の生徒を対象に、大学生協の書籍部において就業体験実習の支援を行った。これが本システムの始まりである。近年は、特別支援学校のほかに、福祉就労施設や一般企業、NPO 法人等とも連携・協働し、障害のある個人に対する「キャリアアップ」に向けた包括的支援を行っている。なおキャリアアップとは、一般には就労場面において、就労者の役割や地位向上に用いられている用語であるが、対人援助学の立場からは、「当事者(被援助者)が、就労場面に限らず、様々な生活場面において求められるスキルを学習するにとどまらず、当該の場面における行動が正の強化によって継続したり、あるいは、さらなる行動選択肢の拡大のために、他者から一方的に与えられるものではなく、『援助つき』であれ、自らが環境設定や自らの行動を操作したり統制できるような行動を獲得していくプロセス(望月ら, 2009)」を示すものである。

学校や企業とは異なる、いわば第三セクターとして、大学が、障害のある個人への就労支援について、学生の「キャリアアップ」も実現しつつ、社会的資源としての役割を担おうという試みがこの、立命館学生ジョブコーチシステムである。

・学生ジョブコーチとして妥協できない3つのキーワード

学生ジョブコーチ(以下、学生 JC)は、以下に挙げる3つのキーワードを軸に据え、様々なケースを担当、支援している。

「援助・援護・教授」の連環 (望月, 2009 参照)

この3つの対人援助活動に関して、その過程について克明に定量的記録を行う。そしてそれをもとに、学校に対しては、「個別的教育支援計画」の更新のためのデータを提供し、企業に対しては、これまでの教授方法やその成果情報の提供の仲立ちをしている。

正の強化で維持される行動の選択肢の拡大

「仕事自体」と「仕事をする環境」の双方が「楽しい」と感じられることが結果的に「行動の選択肢の拡大」というキャリアアップを支えることになる。

継続的就労支援

この「継続的」という言葉は、「就労」にも「支援」にもそれぞれ掛かっている。つまり、「継続的な就労」を「継続的に支援」することと表現できる。なお「継続的な就労」とは、「働き続けること(転職も含む)」を意味し、「継続的に支援」

は、「情報移行を含む地域セクターの連携によって、常に障害のある個人が必要な支援を受けられ、支援の有無も選択することができる」ということを意味している。これらは決して、学生 JC が永久に支援者として存在するという意味ではなく、フェイディングを念頭に置いた支援をすることが原則としてある。そしてその過程で、「誰でも同じ支援ができる」という情報を引き継いでいき、ナチュラルサポートを実現している。

・学生 JC 実践の内容とその変遷

総合支援学校と学生 JC、大学生協や一般企業との協働がスタートした 2004 年には、主に、総合支援学校生徒の就業体験実習において直接支援を行っており、支援内容は、作業の自立遂行を成立させるための、作業スキルを向上させるものであった。スキルアップに向けた支援を行うとともに、学生 JC のシステム構築を行っていた時期といえる。

2005 年以降、支援の中心となったのは、セルフマネージメントスキルの形成に向けた支援であった。作業場面で自己評価を可能とする「作業チェック表」導入や「実習ノート」の体裁改善のほかに、体裁だけではなく、強化を含めた環境設定なども行った。この頃から、総合支援学校の生徒だけでなく、一般就労している方や福祉就労している方のケースも担当し始めた。また、キャリアアップを念頭に置いた支援を始めたのもこの頃である。以前は、支援者が環境の設定や変更を行っていたのに対し、近年は「当事者が環境設定を行うこと、すなわち自ら楽しんで作業をするための工夫をすること」を支援している。また、その過程を随時「個別の支援計画」に反映できるように要請することで、当事者が「FA 宣言した野球選手」のごとく、「今、これがあればできる」を掲げながら「楽しんで働く」を実現できるよう、支援を行っている。

そして現在(2009 年)、総合支援学校等との協働のほかに、新たな取り組みとして、共同作業所(就労継続支援 B 型)を利用する知的障害のある個人に対し、ネットオークションの取り組みや京宿家清掃の活動の支援も行っている。これは、「施設外支援」に位置付けられているものであり、学生 JC は施設外において直接支援を行っている。このように、学生 JC が地域の様々な機関と連携し、新たな就労の形を提案することによって、障害のある個人の就労を支援、実現させている。

引用文献

望月昭 (2007). 学生ジョブコーチという試み-学生による障害者(生徒)の就労実習支援システム-. 立命館文学, 599, 134-140.

望月昭・中村正・サトウタツヤ (2009). 「対人援助学」キーワード集. 晃洋書房.